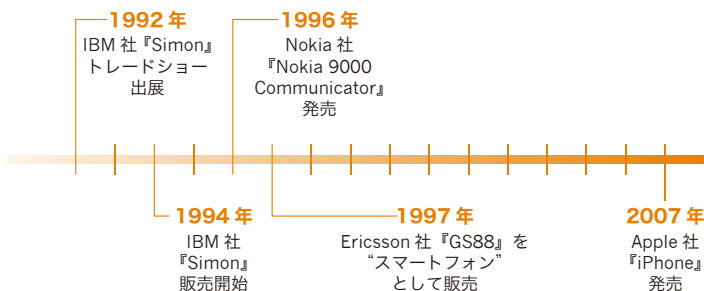


スマートフォンの 始まりと日豪事情

スマートフォンの歴史

『スマートフォン』の始まりは、1992 年にアメリカのラスベガスで行われたコンピューター産業のトレードショーに登場した、IBM 社製の『IBM Simon』だと言われています。『IBM Simon』は、Sharp 社のタッチパネル電子手帳『ザウルス』の OS を採用し、94 年にタッチパネルを搭載した世界初の『スマートフォン』として販売開始されました。その後、96 年にヨーロッパで Nokia 社からコンピュータースタイルの『Nokia 9000 Communicator』が発売され、97 年に Ericsson 社が発表した携帯電話『GS88』を『スマートフォン』と名付けたのが、『スマートフォン』の名前の起源と言われています(図 1 参照)。

【図 1：スマートフォンの始まり】



日本における携帯電話の変遷

日本の携帯電話は、世界とは全く違う歴史を辿りました。1999 年の NTT ドコモ社の『i モード』が登場して以来、Eメールや携帯サイト、アプリケーションなどが利用できるような高機能端末へ、早い時期から進化していたのです。更に日本の携帯電話は、世界でも類を見ない独自の進化を遂げていたため、特異な生態系で知られる南米のガラパゴス諸島になぞらえて『ガラパゴス携帯』とも呼ばれるようになりました。若者の間で『ガラケー (ガラパゴス携帯)』と呼ばれる日本独自の携帯電話は既に高機能を備えていたため、世界標準の『スマートフォン』が日本に参入した当初、Apple 社の『iPhone』を除き、売上げが難航しました。

その後、2011 年 7 月に NTT ドコモ社が Sony Ericsson 社と共同開発で『おサイフケータイ』『赤外線通信』『ワンセグ』などの日本独自の機能を搭載した『スマートフォン』を発売しました。日本の携帯電話は『ガラケー』から“ガラスマ (ガラパゴス・スマートフォン)”へと変化し、独自の進化を続けているのです(図 2 参照)。

【図 2：日本と海外の携帯電話機能の変遷】

